

中根紗希 先生（東日本大震災の被災者で移住者 陸前高田→能代）略歴

- ☆ 1990年岩手県陸前高田市に生まれ陸前高田市で育つ。
- ☆ 2011年3月11日、東日本大震災にて甚大な被害を被った陸前高田市にて被災。
自宅と祖父と叔母を津波で失う。成人式の2ヶ月後の出来事であった。
- ☆ 被災からおよそ4ヶ月あまりの7月末までを避難所で過ごし、8月頃から仮設住宅に居を構える。
- ☆ 2013年の夏頃、かねてより自宅の農作物を作るための畑などがあった場所へ両親が住宅を再建し共に引っ越す。
- ☆ 2022年3月、再婚をきっかけに秋田県能代市へ移住。

*今回講演『故郷・陸前高田と移住先・能代 ～被災が私に残したもの～』について

2022年に能代へ移住し育児・仕事に毎日努めています。
太平洋側の地元岩手県陸前高田とは冬場は特に気候が異なる能代。
地震・津波だけではなく猛暑や豪雪そして水害。
いつ誰がどこで被災者になるか全くわからない昨今。
被災してからの災害に対する思い、
そして移住を経験しての思いをお話いたします。



再びの白砂青松高田松原を



初めて見た風力発電の風車
(能代市はまなす展望台より)



被災した建物を眺める
ことしかできず



被災後の旧市街地
を臨む(陸前高田市)
2022年3月11日撮影

西村 修 先生（CNA秋田ケーブルテレビ レポーター・コメンテーター）略歴

- ☆ 秋田魁新報社・報道記者を経て、CNA レポーターとして番組を取材・制作。「アップルは届かず～日本最後の空襲はなぜ決行されたか？」(2020)、「戦場の秋田美人」(2022)、「マタギスナイパーズ！～秋田のデジタルシニアは電気煙幕の夢を見る」(2023)、稀代の収集家・油谷満夫氏の生き方を追った「『物』の声を聴け」(同)。最新作は戦後80年特番「空白」(2025)。

*今回講演『昭和100年をモノから考える』について

稀代の収集家・油谷満夫氏。91歳の彼がこれまで、たった一人で集めてきたモノは50万点以上にのぼる。時代の変化とともに捨てられ、失われていく運命となるモノの収集に人生を捧げてきた彼の歴史は波乱に満ちたものだった。「捨てられるモノを拾い集め、未来につなげるのが私の使命」と油谷氏。今も、収集や展示などを通じて『モノが語る世界』を人々に伝えている。2025年は「昭和100年」。モノが映し出す、私たちの「100年」を考える。



「昭和の駄菓子屋」～油谷これくしょん より



稀代の収集家・油谷満夫氏